

ツアー旅行(HL 編)

d e J A I R I Z

我がXYL様のお供でHL(韓国)旅行しました。ソウル周辺、済州島(チェジュ島)、そして釜山と3回にわたるツアー旅行でした。

その中で、それぞれ、張さん、朴さん、姜(カン)さん達3人の女性現地ガイドの皆さんにお世話になりました。

日本で同様の仕事をするのは『通訳案内士』(日本政府観光局主管)と呼ばれる国家資格を持つ人たちである。合格率10数%のかなり難関資格といわれています。

韓国でも大変らしく、聞く所によれば、彼女たちはかなり苦勞して資格を得ているようだ。

張さんは、結婚後5年とか7年間の猛勉強でガイド試験合格とか。生きた日本語勉強のため、その間は日本大使館で催された日本映画に通いつめて、よく渥美清の寅さん映画を観たとか。朴さんも結婚後に勉強され、そして、姜さんは大学で日本文学を専攻され、卒業後数年間勉強されて資格取得された。そして、卒業後は給料をはたいて毎月のように来日して旅行され、九州～北海道まで全国の旅をされたとか。また結婚後も彼との外国旅行の多くを日本にしているとか。さすがに、言葉のアクセントはアグネスチャンの様なところもあるが、「てにをは」(助詞)はしっかりしていた。

今だに韓流ブームが続いている。TVでも韓国ドラマの放映が多い。距離的に近いせいもあるが、よく似ているところもあり親近感があるせいだろうか。言葉の端はしには同じ言葉で似たような発音もある様に思う。今の簡体字は読めないけれど、旧跡などに書かれた文字は漢字で少しは意味も分かる。食べ物もそれほどの違和感を抱くことはない。

地理的にも近く、日本文化も中国大陸～朝鮮半島から伝わり、又、大きな影響を受けていることは良く知られている。

百聞は一見にしかず。駆け足のツアー旅行では真髄は分からない、といわれればそれまでだが。料理に舌鼓、目をみはる景色、そしてどこかで見たことがあるような風景、またチョッピリと韓国の方との交流であって、思いが新たにすることも多い。

我日本でもそうだが、旅行をする御婦人が多い。HLでも同様に、名所とか旧跡を巡ると観光バスを連ねて、その乗客はほとんどが御婦人方である。そして、明るく朗らか。わが国と違うのは、皆がみんな服装が赤とか黄色とか青とか原色で派手であるところか。

顔かたちでは日本人とほとんど見分けがつかない。なにか話しかけてみたいのだけど、アンニョンハセヨー！カムサハムニダ！など簡単な挨拶くらいしか出来ないのがもどかしい、も少し、日常の簡単な話でもできればもっと面白い旅になるのだが…。

話があちこちに飛んでしまったが、楽しき旅も彼女らツアーガイドさん達の通訳があって享受できているところが大きい。カムサハムニダ！(TNX)(終)